

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4076200486		
法人名	地域福祉研究所有限会社		
事業所名	グループホーム ほなみ		
所在地 (電話番号)	福岡県飯塚市枝国430番地2 (電話) 0948-23-4227		
評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成22年2月23日	評価確定日	平成22年4月9日

【情報提供票より】(平成22年2月16日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年3月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤 9人, 非常勤 3人, 常勤換算 8.4人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り 1階建て		
------	----------------	--	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	15,500 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	150,000円	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	340 円	昼食 370 円
	夕食	456 円	おやつ 円
	または1日当たり	1166 円	

(4) 利用者の概要 (2月16日現在)

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護1	5 名	要介護2	2 名
要介護3	5 名	要介護4	1 名
要介護5	4 名	要支援2	名
年齢	平均 77.2 歳	最低 69 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大庭医院・さくら歯科・ほわいと歯科
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅地の中にある「グループホームほなみ」では、季節の変化を肌で感じながら、1日2回の散歩を年間を通じて行っており、タオルを首に巻き、元気に歩く入居者の方々の生き生きとした姿がある。市の主催する「歩こう会」には入居者の方々も参加し、最高齢の出場者として、また完走者として、表彰状を頂いている。「あきらめたらいかん」という気持ちを、入居者・職員は共有しながら、身体機能や生活能力の維持・向上に積極的に取り組んでおり、日常の暮らしに、また地域の方との日帰り旅行参加や相撲見物等にて、その成果が現れている。職員の主体的な関わりを促しながら研修計画を作成するなど、質の向上に向けて積極的な姿勢で取り組んでおり、自立支援への多面的なアプローチが行われている事業所である。地域に向けての情報発信への取り組みが進行しており、今後の福祉拠点としての展開が楽しみとなる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価以降、記録の整理等に取り組んでいる。また家族への通信に担当者のコメントを記載し、それを保存していく等の新たな取り組みが行われている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価作成にあたっては、職員全員で取り組み、管理者によってまとめられている。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1回定期開催されている運営推進会議には、今年度より地域の警察署からも出席を得ており、地域の防犯等に関する有意義な話し合いが行われている。地域との交流・連携や事業所の理解を育む場として会議を有効活用しており、防災対策や感染症対策、食事の試食会等、内容は多岐にわたり充実している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	年2回、家族会を開催し、運営方針の説明及び意見交換を行うと共に、家族の要望・苦情等を頂く機会としている。家族とのコミュニケーションを大切にしており、直接意見を頂くことも多い。事業所としての苦情・相談窓口及び公的機関の相談窓口を案内している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入しており地域活動として、リサイクル・ゴミ拾い等を日常生活の一部として行っている。町内会婦人部の日帰り旅行に参加する際には、入居者の体調にあわせた日程調整等の配慮をいただいている。現在、地域へ向けて、認知症に関する講演や資料の回覧等の情報発信の準備を整えている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	「地域に根差して安心・安全な生活。元気で楽しい生活。家族と同様」という、地域密着型サービスとしての意義を踏まえた、独自の理念を掲げている。地域住民として、日常の中での自然体での暮らしの実現に向けて、日々取り組んでいる。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	毎朝職員が理念の唱和をしていくうちに、入居者の方々も参加するようになり、現在は一緒に理念を唱和している。「今日もよろしくお願いします」と声を掛け合い1日が始まる。困難な事例等が発生した場合には、理念に立ち返り、管理者・職員全員で確認している。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	町内会に加入しており地域活動として、リサイクル・ゴミ拾い等を日常生活の一部として行っている。町内会婦人部の日帰り旅行に参加する際には、入居者の体調にあわせた日程調整等の配慮をさせていただくなど、地域の方々との距離感も近く、自然体での交流が育まれている。現在、地域へ向けて、認知症に関する講演や資料の回覧等の情報発信の準備を整えており、福祉拠点としての活動が始まっている。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	外部評価を実施する意義を理解し、地域密着型サービスとしての役割を再度確認する機会として、サービスの向上につなげるよう取り組んでいる。自己評価作成にあたっては、職員全員で取り組み、管理者によってまとめられている。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	2ヶ月に1回定期開催されている運営推進会議には、今年度より地域の警察署からも出席を得ており、地域の防犯等に関する有意義な話し合いが行われている。地域との交流・連携や事業所の理解を育む場として会議を有効活用しており、防災対策や感染症対策、食事の試食会等、内容は多岐にわたり充実している。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

グループホーム ほなみ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	地域の困難事例への対応等について、地域包括支援センターと協働している。毎月1回、市の派遣する介護相談員を受け入れており、交流会にも参加している。行政主催の研修会にも参加し、ケア会議等にて報告し職員間での情報の共有に努めている。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	現在、権利擁護に関する制度を活用している方もおり、嘉飯桂地区協議会や社会福祉協議会主催の研修へ参加し、また伝達研修により職員全員の意識を高めている。裁判所へ訪問し、実際の手続きに関する説明を受けたり、司法書士との連携により活用に向けての支援を行っている。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	毎月発行している事業所便り「ほなみ通信」には、担当職員によるメッセージが記載され、日々の暮らしの様子や行事報告等を写真付きで伝えている。家族の来訪も多く、生活状況や健康状態について報告している。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	年2回、家族会を開催し、運営方針の説明及び意見交換を行うと共に、家族の要望・苦情等を頂く機会としている。家族とのコミュニケーションを大切にしており、直接意見を頂くことも多い。事業所としての苦情・相談窓口及び公的機関の相談窓口を案内している。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	現状としては異動もなく、安定した状況にある。事業所全体での馴染みの関係づくりが行われており、やむを得ず、異動や離職等が発生した場合にも、サポートできる体制にある。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	職員の採用にあたっては、本人の働く意欲を重視しており、年齢や性別等による排除は行っていない。法人代表の介護に対する思いに共感する職員も多く、活き活きと勤務している職員が多いとの印象を受けた。資格取得や研修参加を積極的に支援している。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

グループホーム ほなみ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	嘉飯桂地区協議会や飯塚市主催の人権研修に参加しており、ケア会議等にて職員全員に伝達し、また具体的な事例をもとに話し合いを行う等、意識を高めて行くよう取り組んでいる。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	職員の経験や能力に応じた年間研修予定表を作成し、毎月様々な内容にて実施しており、外部への個人研修参加や内部での全体研修及び認知症ケアに関する研修が組み込まれている。法人として資格取得へ向けての積極的なサポート体制があり、費用負担や勤務調整等を行っている。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	同法人のグループホームとの充実した連携を、研修実施や合同行事開催へとつなげている。また市内のグループホームや小規模多機能事業所との交流もあり、情報交換や相談する関係がある。今後はこれまでの実績を活かし、ネットワークづくりへ向けてリーダーシップを発揮される事にも期待したい。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	緊急の入居となる場合も多いが、本人・家族との面談により、不安に思っていること、求めていることをゆっくりと聴きながら、受けとめるよう努めている。見学に来てもらい、ホームでの暮らしや理念を十分に説明し、納得して安心してサービスが開始できるよう柔軟に対応している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	理念にも示されている「家族と同様」という関係性の中で、入居者一人ひとりの方々に、様々な役割りを担ってもらいながら、力を発揮する場面づくりを支援し、達成感を共有している。入居者・職員の距離感も近く、お互いの協力関係の中で、日々の暮らしを共に過ごしている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

グループホーム ほなみ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	3時のおやつ時間をコミュニケーションの時間として、入居者一人ひとりの方々と職員全員が会話する機会を持っており、これまでの暮らしや、現状の希望や思いなどを把握する場面ともなっている。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	「あきらめたらいかん」という共通認識を、計画作成にもつなげ、1日2回の散歩や役割り、生活リハビリやレクレーション等、一人ひとりの個別性ある介護計画が作成されている。また一人ひとりの暮らしの個人目標をホールに掲示している。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	定期的に健康状態等を把握しながら、目標達成に向けて計画の見直しを行うよう取り組んでおり、支援経過記録からも状況の変化がわかりやすい。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	近隣の同法人グループホームとの連携により、合同行事(運動会・夏祭り・クリスマス会等)を行い、多彩な交流の機会となっている。冠婚葬祭や個別の外出にも柔軟に対応している。入居者の入院時には医療関係者との連携により、早期退院への働きかけを行っている。		
		本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	かかりつけ医の月2回の往診があり、充実した連携体制が整備されている。また協力医療機関とも連携を図り、緊急時等の対応について体制を整えている。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

グループホーム ほなみ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化や終末期への対応について、かかりつけ医との話し合いを繰り返しながら、本人・家族の意向を大切に支援を行っている。看取りを行った経験もあり、医療関係者や家族、職員間での連携を図り、安心して過ごせるよう方針を共有している。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	年間研修の中に、認知症の方々への対応や個人情報保護等、様々な角度からのプライバシーの確保に関する内容を盛り込んでいる。名前の呼び方についても入居時に確認し、希望にそった声かけを行っている。記録等の個人情報については十分に配慮し、事務所で管理・保管を行っている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	入居者一人ひとりの暮らしのリズムや希望を把握し、状況等に配慮しながら、無理強いとにならないよう柔軟な対応に努めている。外出を希望しない方には職員との会話を楽しむ時間を持つ等、それぞれの方の自己決定を引き出せるよう支援している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	食材の買い物と一緒に掛けたり、米とぎをする方、盛り付けや配膳、食器洗いをする方等、一人ひとりに応じた力を発揮してもらっている。外食や「おやつパイキング」等を企画しながら、「食」を楽しむ機会を充実させている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	基本的には週3回の入浴日の設定はあるが、一人ひとりの状況にあわせて、曜日や時間帯、タイミング等に配慮し、柔軟な対応を行っている。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

グループホーム ほなみ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	ホームの畑での野菜作り・食器洗い・夕方の戸締り・洗濯物干し・モップかけ等、一人ひとりに合わせた力を発揮できる場面づくりを支援し、心身の活性化につなげている。毎年行われる「歩こう会」にも3年連続しての参加を予定しており、多くの入居者の方々にとっての目標となっている。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	暑さ寒さを肌で感じながら、希望や状況にあわせて毎日2回のホーム周辺の散歩が日課として行われており、地域行事である「歩こう会」への参加を目標としている方もいる。食材の買い物やドライブ・外食等に出席している。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
気晴らしは					
29	68	鍵をかけないケアの実践	地域の方や来訪者が気軽に訪れることができるよう、日中玄関を施錠する事はない。職員は、入居者一人ひとりの行動傾向の把握や、目配り・気配りを行い、安全面に充分配慮しながら自由な暮らしを支えている。地域の方々の理解・協力もあり、声かけや連絡をしてくれる事もある。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	年に2回、昼夜を想定した避難訓練を実施している。地域防災マップを掲示しており、福祉センターを避難場所としている。2ユニット18名全員の避難に要する時間を計測する等、具体的な課題を持って取り組んでいる。消防署で行われる緊急時の初期対応や応急処置の研修に参加している。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	近接する同法人グループホームに勤務する管理栄養士のアドバイスを受けながら、栄養バランス等に配慮された献立が作成されている。食事前の口腔体操や食後の口腔ケアを行い、摂食・嚥下リハビリとして疾患予防やADLの維持・向上に向けた取り組みを行っている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

グループホーム ほなみ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	ユニット間を自由に行き来できる広い廊下は、天候や気候により運動コースとなり、高い天井とともに開放的な空間となっている。掃除や換気への配慮が行き届いており、清潔感ある快適な空間づくりが行われている。ソファや椅子が配置され、それぞれの方々が思い思いに過ごせる場所が確保されている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室入り口には、手作りのネームプレートがかけられている。筆筒や椅子などの家具や、枕・時計等の使い慣れた物が持ち込まれており、安心して過ごせるよう部屋作りが行われている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			